



第17号

2014年春号

丹波市農業委員会だより



丹波市隣保館地域交流事業 果樹の剪定教室風景

- ◆安心安全地産地消コーナー「ふるさとのかたち」・・・・・・・・・・ P4・P5
- ◆視察報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2～P3
P6～P7
- ◆農地相談日のお知らせ・丹波市賃借料情報・・・・・・・・・・ P8

視察研修報告

農業委員 荻野 栄一

1日目

「広島県世羅台地を訪ねて」

「丹波市の特産物は何ですか。」
「水稻が中心です。」「水稻は兵庫県で何番ですか。一番ですか。それ以外に何がありますか。」
等々：。「皆さんは目標を持つ

て取り組んでいますか。。」と佐古理事長（女性）の冒頭挨拶で始まった。視察研修一日目、「世羅夢高原六次産業ネットワーク」の説明の席のことだ。

「六次産業化とは第一次産業（農業）と第二次産業（食品加工）と第三次産業（流通・販売）の有機的な連携が重要。足し算ではなく掛け算です。」と自信と実績から出た言葉に説得力があった。

この世羅夢高原六次産業推進協議会は広島県の中東部に位置し、人口は一万七〇〇〇人余りで農家世帯数は二四八戸、地形は世羅台地と呼ばれる標高三五〇m～四五〇mの山間部にある。農産物が育つ良い環境に恵まれた地形で、全国高校駅伝で有名な世羅高校の地元でもある。

事業の概要は平成十一年に結



成したそのネットワークは町を越えた広域範囲から農園・産直市場・女性企業等で組織されている。平成十八年には拠点となる夢高原市場を設立。広域連携によるイベントやPR活動で売上げは年間一六億七三三万円。来場者は一二〇万人を超えるなど成果を上げ、地域に根を下ろした活動をしながら足りないものを補充しあい、多くの交流活動に取り組んでいる。

また、ネットワークを充実させることにより、今まで交流の少なかった農業者と住民など沢山のグループと持ちつ持たれつの良い関係を生んでいる。

「六次産業化に取り組まれた一番の動機は？」と質問すると「それまでは物を作っても人が来ないので売れなかった。流通・販売の機能が乏しかった。」「一番は良い指導者を見つけたことがポイント。そして儲けより一つになつてやる決意です。出来るまでの



一年間に二〇〇回以上集会を開き、喧嘩腰のときもあった。理事九人中三人が女性で、その結果細かい所に気が付く女性の感性が生かされた。」と佐古理事長の成功体験の言葉に迫力を感じた。



農家の女性が元気になった！

2日目

「岡山県岡山市を訪ねて」

二日目は、岡山県岡山市だった。拡大する耕作放棄地・遊休農地の解消強化に取り組む農業委員会があった。耕作放棄地については、丹波市農業委員会でも共通の課題だ。

同市は、耕地一万八〇〇〇ヘクタールの内、二六〇ヘクタールが耕作放棄地だ。啓蒙活動や農地パトロールをもとにした地権者への働きかけを実施している。

驚いたのは同市耕作放棄地協議会が導入した大型草刈機（ハシマーナイフ）。専用オペレーターによる農地の再生化の取り組みだ。実態は平成二十四年八月より農業委員の有志らがボランティアで草刈り作業を代行。農地として復活させ、放棄地を所有者から意欲ある農家に賃貸借して貰うことを狙いにし

ている。

二台の草刈り機は小型ユンボの先に付けるなどの工夫した活用だ。耕作放棄地対策事業費補助金二一〇万円で導入。目標は年間一〇ヘクタールの解消を目指している。

「初年度はわずか五三アールと低調だった。その要因は耕作復活の条件がネック。」「耕作放棄地は前年度より新たに六ヘクタール増加しており、有害鳥獣特に鹿や猪の被害による耕作離れが課題となっている。」と説明される農業委員会の苦労が感じられた。

二日間の研修をさせていただき二か所ともに目的・目標をもって具体的取り組みがなされていることに敬意を表したい。六次産業化に取り組まれた世羅町は「やって良かったことは、農家の女性がみんな元気になったこと。」と言われた理事長の言葉は特

に残った。

地産地消のあり方が見直される中、丹波市農業において「丹波」のブランド力・阪神間から一時間圏内の利便性・四季の観光資源・六町のイベント力を包括的に縦横ネットワークで繋ぐことができないのだろうかと感じた。



ふるさとのかたち

安心安全、地産地消コーナー



市島地域

お客さんの笑顔が励み

松本 早紀

私は、播磨農業高校の畜産科で牛に関して色々なことを学びました。元々動物好きで就農は動物に携わる仕事に就きたいと考えていました。母の紹介で「高見牧場」を知り、採用していただき、今頑張っています。

私の担当は、肥育牛が二〇〇頭、繁殖牛が約五〇頭の飼養管理を上司と二人でしています。

朝八時から担当牛舎の見まわりをしながら健康状態を確認し、給餌をしていきます。毎日同じ事の繰り返しですが、牛の状態は日々変わるので毎日緊張感を持って取り組んでいます。

す。給餌の他には牛舎内の牛の移動、清掃もしています。一人では出来ない仕事もあるので上司の方たちと協力して作業しています。



牛房にオガクズを入れてあげた時に、牛が気持ち良さそうにしている姿を見ると、とても癒されます。

「高見牧場」は、肥育牛約八〇〇頭、母牛が約二〇〇頭いて、子牛の生産、育成、肥育を一部一

貫経営をしています。直売やレストランがあり、お客様の顔が見えるので、喜んで買ってくれるお客様を見ると私の仕事の大きな励みになります。育てている牛が「牛肉」となり、食卓に並び、喜んでもらえるのが私たちの仕事でもあり誇りです。まだ就職して一年足らずですが、もともと自分の能力を高めて頑張っていきたいと思っています。

山南地域

家族で共に花づくり

村上 良之

私は現在パイプハウス九〇〇坪と露地二〇五〇坪で、妻と息



子で切り花の生産、出荷をしております。

出荷先は、主に大阪の花市場へ週三回で周年出荷をしております。

ハウスには、利久草、天文草、金魚草他、露地は小菊と草花などを計画的に生産し、出荷しております。

露地では、近年の異常気象で様々な障害が出たり、ハウスでは冬場の出荷をすると灯油の高騰などで大変ですが、家族で意見を出し合いながらこれからも花作りを誠実に丁寧に取り組んでいきたいと思っています。



春日地域

農業は、仏滅

だけど 不滅！

婦木 克則

今、日本の農村には、かつてない大波がやってきている。「農政改革」と、政治家たちがいう、それだ。私の目から見ると、どう見ても、農業を金儲けとしてみる輩たちの侵略だ。

農業は、そもそも、食べ物を得るために、自然に働きかけ、共生しながら、その実りをいただく、なりわいである。そこに、文化が生まれ、暮らしが営まれる。まさに、丹波のイメージとは、そういうものである。

私自身、三〇年前、就農時に「今、農村はおもしろい！」という、キャッチフレーズを掲げ、なりわいの価値を高め、次代に繋げて行きたいと、取り組んできたつもりだ。家族で牛を飼い、稲や野菜をつくり、麦や豆で暮らしの加工品をつくり、地域の祭りや農村の

五感で感じる農家のくらし



景観を大切にしながら、そういう事に「ほこり」の持てる地域づくりを目指してきた。まさに、農業農村に軸足を置いて、生きてきたつもりだ。

今回の波は、経済にのみに軸足を持つものとしか思えない。私たちの価値観が大きく揺さぶられていて、まさに、その大波にのみこまれてしまいそうな状況である。

しかしそれでも、私たちは、この地に生き、暮らししていくだろう。お米の価格がいくら安くなるうが、春には田に水を張り、稲を植え、実りを得るため汗を流すだ



ろう。それこそが、私達が生きているという事なのだ。家族と仲間の笑顔を支えにして…

今回、このような農家の価値観や生き方、暮らしを五感で感じてもらいたくて、農家体感施設〇（まる）を作った。丹波の木材でできた空間に身を置き、農家の暮らしに触れてもらう事でお金とは、ちがうモノサシを知ってほしい。農業、農村に軸足を置いた、我々の新たな戦略である。

体験内容	営業時間	受入人数	利用料金
農場見学ツアー 田畑、牛舎、文化など	開催日限定 予約制	軽食付きです ご相談ください	1人1,000円
収穫体験 四季折々 約70種類の中から	開催日限定 予約制	ご相談ください	
農家カフェ	開催日限定事前HP告知		

【体験メニュー概要】

視察研修報告

農業委員 大下 政夫

丹波市農業委員会は、平成二五年十一月五・六日の両日、委員の知識の向上と、活力ある農業、農業地域の構築、農業経営と暮らしの発展のための情報収集を目的として①広島県世羅町での「世羅高原六次産業ネットワーク」の取り組み、②岡山県岡山市の農業委員会の活動の視察研修を行いました。
その概要を報告致します。

①世羅高原

六次産業ネットワーク

世羅高原六次産業ネットワークの取り組みに至った背景には世羅高原の農業の特徴として昭和五十二年から平成九年までの二十一年間広島中部台地国営開発事業により三五七ヘクタールの農地が造成され主な作物



として、梨、ぶどう、りんご、有機野菜、花、酪農などが栽培経営の主であったが農業で安定経営できない、農業者の高齢化、担い手の減少、農地の荒廃、また観光農園ではグレード感に欠けリピータが少ない。加工グループでは商品の売り場がなく直売所では商品不足などの課題を

抱えていた。

平成九年その課題を解決すべく行政・農協とも連携し、世羅高原六次産業推進協議会を設立され、平成十一年に六次産業ネットワークを結成。「豊かな地域づくり」を目指し「夢とゆとりある農業公園」となるよう積極的な活動を展開され、平成十八年には協同組合「夢高原市場」を設立、ネットワーク会員の特産品、販売、情報提供、体験交流などの活動をされている。

六次産業化により世羅高原のイメージ強化、特産品の売上げ増加、仲間づくり、若者の就農、老若男女の交流などの成果を上げ、ネットワーク会員数は平成二十五年現在六七団体一〇〇人、年間の売上げ一六億七三八三万円となっている。

若い人達が農業に関心を持ち女性も生き生きと活動され益々元気と夢のある世羅高原での研修であった。

案内を頂いた理事長様も澆刺とされた女性の方で今後農

業の取り組みに有意義な研修であった。



②岡山市農業委員会の活動

岡山市は広大な農地（経営耕地面積一万八〇〇〇ヘクタール）と地域の特色を活かした多様な農業が営まれ、南部地域では稲作、麦作、ナス、玉葱などの生産、中部地域では、桃、マスカットなどの果物、北部地域に於いては酪農業が営まれている。昨今都市化による農地の減少、農

業者の減少と高齢化、後継者不足、また耕作放棄地の増加などの諸課題を抱えている。

岡山市は此等の課題解消を図るため平成二十一年魅力ある農業を展開していくため今後一〇年間の農業振興の構想と基本計画を示した「岡山市農業振興ビジョン」を策定され、これに沿って農業振興を図るための各種施策を推進されている。

農業委員会の組織・取り組みは第一農業委員会、第二農業委員会の二組織があり、地区協議会を設置し、農地法に基づく申請などの事前審査、委員会活動などを協議されているが、当丹波市農業委員会の様な部会制度（農地部会・農政部会）は設置されておらず、第一・第二委員会の情報交換や全市的な案件の協議を行うため、両委員会より各会長、職務代理、協議会会長で連絡調整会議を設置し積極的な活動を展開されている。

両委員会ともに年次事業計画を立案され、農業委員として

地域の農業者の実情・特性を把握し、地域の農業者や関係機関などと連携しつつ農地の利用集積、遊休農地の解消、担い手の確保、育成について、それぞれが数値目標を設定し活動されている。

また、委員各自において、当地域の課題に取り組むべき事項について「活動宣言書」を提出され、諸課題の解消のため積極的な活動を展開されている。

以上二日の研修は、今後、農業委員として活動していく上で大変参考になり示唆に富む研修であった。



こんなこともしました！

「大空の会」の

研修会に参加して

農業委員 秋山 佐登子

一月二十八日、青年農学者の「大空の会」の研修会に、丹波市農村女性連絡会も参加させてもらって、バスで三重県の「モクモクファーム」に行ってきた。

東名神を通って遠いと思っていた三重県までがすごく近くに感じられ、予定より早い目に着いて、びっくりでした。

年の差が親子か孫かというくらいある二つの団体なので、なかなか話が弾むということはないのですが、一つのグループが六人、七人で、ソーセージ作り、豚まん作り、タルト作りに分かれて手作りました。

特に、ソーセージ作りは三人ずつ協力して、ミンチを練る人と調味料を入れる人、氷を添える人、又、腸に詰める時も、手を添える人、力チ力チと肉を押し出



す人と呼吸をあわせての作業が多く、とても楽しい時間でした。ゆで上がったソーセージを試食して、もっと味付けを濃くしてもよかったとか、パセリが多くてもいいね等、盛り上がったうえに、たっぷりのお持ち帰りがあつて、ラッキーな体験でした。回を重ね、いろいろな場面でご一緒する事で、お互いの人となりも、農学者の立場も解かりあえていくのではと感じた二日でした。

【農地相談日のお知らせ】

農地に関する相談をお受けします

地 域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	会 場
柏原地域	15(火)	14(水)	13(金)	15(火)	12(火)	12(金)	15(水)	13(木)	柏原住民センター
氷上地域	11(金)	13(火)	12(木)	11(金)	11(月)	11(木)	10(金)	12(水)	氷上住民センター
青垣地域	11(金)	13(火)	12(木)	11(金)	11(月)	11(木)	10(金)	12(水)	青垣住民センター
春日地域	15(火)	14(水)	13(金)	15(火)	12(火)	12(金)	15(水)	13(木)	春日庁舎 (第1委員会室・4階)
山南地域	14(月)	12(月)	11(水)	14(月)	8(金)	10(水)	14(火)	11(火)	山南支所 (会議室・1階)
市島地域	14(月)	12(月)	11(水)	14(月)	8(金)	10(水)	14(火)	11(火)	市島農村 環境改善センター

相談時間：青垣地域は午後3:00から午後4:00まで、その他の地域は午後2:00から午後3:30まで

会 場：相談会場は当日、案内板等でご確認下さい

丹波市賃借料情報

丹波市内の各地域の、農地の賃借料をお知らせいたします。

平成25年1月から12月までに利用権設定により締結(告示)された賃借料の平均(10アール当たり)は、下記のとおりです。

賃借料の平均額

地 域	田(水稻)	畑(普通畑)	設定率
柏原地域	5,100円	— 円	27.4%
氷上地域	6,700円	5,500円	52.6%
青垣地域	5,600円	4,600円	70.2%
春日地域	5,700円	4,600円	17.4%
山南地域	8,500円	9,700円	54.6%
市島地域	6,300円	3,500円	49.3%
(参考) 丹波市全体	6,400円	5,500円	45.3%

※1 賃借には賃貸借と使用貸借があり、設定率は賃貸借が設定された率です。

※2 果樹園等の特殊な賃貸借は除いています。

※3 「平均額」は算出結果を四捨五入し100円単位としています。

国民年金に加入している農業者のみなさまへ

農業者のための

公的な積立年金

国が支える。安心が大きくなる。

担い手 積立年金 (奨励)

農業者年金

しっかり積み立て! 安心で豊かな老後を! 家族みんながニコニコ笑顔!

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

経営とくらしに役立つ情報をお届けします!

★毎週金曜日発行

★購読料1ヶ月600円

お申込は農業委員会事務局へお問い合わせください。